

馬場ひでゆきの活動日誌

No.78

1万6千を超える署名の重さを知って！

無床診療所化した時の詳細が明らかになっていない！

田舎から切り捨てていくのか！

住民説明会での声

松代病院無床診療所化

9月28日、松代病院を無床化診療所にする方針について2回目の住民説明会が松代、松之山の両地域で開催されました。どちらの会場も参加した住民や職員から切実な訴えが続きました。

●松代病院の現役医師が発言！

驚いたのは、松代病院に勤務している小堺医師が発言されたことです。余程の覚悟をもっての発言だと思います。現場からの発言なので、とても説得力がありました。

『松代病院の診療所化について、表向きには「小規模組織の限界」「人材不足」「救急受け入れ困難」を理由として挙げられているが、これらは後付けの理由だ。

現在、医師は3名体制で10年前から変わらない、十分に診療可能だ。看護師、リハビリスタッフ、ケースワーカーなども優秀で、決して人材不足ではない。無床診療所化の真の目的は、一般会計からの病院事業繰出金を削減すること（県の財政負担を減らすということ）だ』

『病院から診療所へと機能が縮小するにあたって、最も心配するのは、地域の方々との連携体制だ。今は、それぞれの患者さんについて、介護支援員や包括センターのケアマネ、行政の保健師、そして病院のケースワーカーや看護師がそれぞれ情報を提供しながら、課題を共有している。入院機能を持つからこそ外来診療や在宅診療、地域連携が可能になる。外来診療だけでは人員も削減されるから、これができなくなり、地域医療の基盤が崩れる』

『魚沼圏域ではすでに病床不足が指摘されている、松代病院の病床をなくすのは、これに逆行することだ。特に高齢で複数の疾患を抱える患者は他院で受け入れが難しい場合が多く、松代病院がその役割を担っている。無床診療所化によりこれらの患者が行き場を失えば、地域全体に不利益を及ぼす。』

『病院局は診療所化後の体制を明示していない、提案されたりハビリ体制（月2回午前のみ）も実質的に機能しない。無床診療所化は地域医療を大きく損なうものであり、病院職員一同強く反対している』

●県の論理は破綻している

小堺医師がいうように、無床診療所化の目的は、県の財政負担を軽くすることです。

しかし、令和6年度の県立病院の赤字総額は46億円、その大部分は基幹病院（中央、新発田、十日町）の24・4億円（赤字の約53%）、松代病院は3300万円（赤字の約0・7%に過ぎません）。県の理屈は破綻しています。全国で多くの病院が経営難に陥っていることを直視するべきです。現在の診療報酬制度では、地方の医療が守れません。地域医療を切り捨てるのではなく、県は住民とともに国に対して、医療費抑制策の転換を求めるべきと考えます。

●16310筆の署名提出

10月1日、「県立松代病院を守る会」のみなさんが県庁を訪れ、有床病院として存続することを求める署名16310筆を病院局に提出しました。

参加者の一人は、「知事は人口減少を地域から食い止めてほしいと言うが、医療なくして食い止められない」と訴えました。松代病院の無床診療所化は、10月7日の魚沼地域医療構想会議で議論がなされ、12月議会で病院から診療所への条例改正案が上程される予定です。もちろん、私は地域医療を守る立場から反対します。



松代病院は、地元住民からの信頼が厚いです！

9月議会始まる

論点
その1

原発再稼働！

9月議会でも、最大の議題は柏崎刈羽原発再稼働の問題です。この議会では、今まで以上に原発再稼働に向けての自民党や県の動きが顕著になってきました。

●エネ庁長官からの出席要請

9月29日、議会開催日の前日に、資源エネルギー庁の村瀬長官から、柏崎刈羽原発の国の取組について説明がしたいとの要請がありました。自民党は他の会派に承諾を求めました。議会運営委員会では、「緊急性と重要性を感じられない」（リベラル新潟）との反対意見も出ましたが、最終的に賛成多数で村瀬長官らを参考人招致することが議決されました。

●露骨な見返り要求！

自民党の代表質問では、中村康司議員が、「柏崎刈羽原発が再稼働しても地元にはメリットがない、関西電力は福井県に対して毎年50億円を拠出すると聞いている、本県においても、地域住民の安全確保や地域経済の振興に向け、東京電力に対して資金を求める仕組みづくりが必要ではないか」と質問しました。

花角知事は、東京電力が原子力関係閣僚会議で地域経済の活性化に貢献すると宣言したこと

を紹介し、東京電力には「これらの取組の具体的内容を示していただきたい」との期待を示しました。

●県民の不安には応えない

リベラル新潟の重川隆広議員は、「報道機関によれば、県バス協会の会員が避難用に稼働できるバスの台数は、国が取りまとめた柏崎刈羽地域の緊急時対応で必要とされる台数の1割程度に過ぎないことがわかってい

る。避難計画の実効性に疑問が生じている。検証と見直しが必要ではないか」と質しました。

これに対して、知事は「マスコミがどんな調査をしたのかわからない」とし、「主要なバス事業者に直接確認したところ、いずれの事業者からも可能な限り協力しますと回答を得ている」と開き直りの回答をしました。

●県民意識調査の結果も軽視

未来にいがたの上杉知之議員は、「調査結果の速報値を見る限り、原発再稼働への理解が進んでいない、すぐに原発再稼働の是非の結論を出さず、理解促進の取組を強化した後に改めて

上越民商「高田夜の街オリエンテーリング」

楽しかったです。夜の仲町を地図をたよりに2時間で3つのお店を探して飲み歩くという内容です。

普段行ったことのない店に行くことができました。チケットは4,000円、これで3店舗でそれなりの食事と飲み物が提供されます。割安な価格です。

企画は21時に終わりますが、その頃はアルコールも入っていい気持ちです。しかし、時間はまだ21時。もう一軒行こうじゃないかという話になります。参加者が店を知る機会になるし、店側も将来的な売り上げに繋がる、仲町を楽しむきっかけにもなり経済効果は抜群！来年も是非！



質疑時間等予定

資料説明 10時～

1 原子力規制庁	30分
2 内閣府	30分
3 資源エネルギー庁	30分
4 東京電力	30分

質 疑 13時～

5 自由民主党	60分
6 未来にいがた	45分
7 リベラル新潟	45分
8 真政にいがた	30分
9 公明党	30分
10 無所属(馬場)	15分

当事務所で視聴会やります！！

10月16日(木) 10時～17時

上記記載の通り、16日に連合委員会が開催され参考人招致が行われます。

当日は当事務所で議会の視聴会を開きます。各会派と国や東電とのやりとりを是非オンラインタイムで視聴してください。馬場も16時以降に登場予定。お待ちしております！



意識調査を実施し、是非の判断をすればいいのではないかと聞いていたが、知事は「改めて意識調査をすることはない」と否定しました。

以上のとおり、国には迎合し、東京電力には露骨に見返りを求め、住民の不安や疑問には何ら応えないという姿勢が露骨です。

知事は、再稼働の判断を10月末の県民意識調査の結果が出た後に判断し、県民の意志を確認する方法についても、その判断と同時に示したいと述べています。これから、原発再稼働の問題は大きな山場を迎えます。引き続き頑張ります。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田武番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp